

インフルエンザ情報

国立感染症研究所感染症情報センター（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）は、「インフルエンザ流行マップ第04週（1月21日～1月27日）平成25年1月30日現在」を平成25年2月15日に公表した。

（コメント）

2012/2013年シーズンのインフルエンザの定点当たり報告数は2012年第43週以降増加が続いている。2013年第4週の定点当たり報告数は36.44（患者報告数180,085）となり、今週も大幅な増加となった。

定点医療機関からの報告をもとに、定点以外を含む全国の医療機関をこの1週間に受診した患者数を推計すると約214万人（95%信頼区間：200万人～228万人）となり、5～9歳約35万人（16.4%）、10～14歳約30万人（14.0%）、30代約26万人（12.1%）、0～4歳約25万人（11.7%）、40代約23万人（10.7%）、20代約20万人（9.3%）の順となっている。

都道府県別では新潟県（53.81）、千葉県（53.22）、長崎県（50.91）、埼玉県（49.53）、愛知県（46.65）、福岡県（45.74）、福島県（45.41）、神奈川県（41.69）、東京都（41.29）、茨城県（41.25）、愛媛県（40.46）の順となっており、第2週、第3週に続いて第4週も全ての都道府県で前週の報告数よりも増加がみられた。

全国の保健所地域で警報レベルを超えているのは300箇所（44都道府県）と増加し、注意報レベルのみを超えている保健所地域は236箇所（45都道府県）となった。

2012年第36週以降これまでの国内のインフルエンザウイルスの検出状況をみると、AH3亜型（A香港型）の割合が最も多く検出されている。詳細は感染症情報センターホームページ（<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html#graph>）を参照されたい。

なお、第52週～第04週までの都道府県別の定点当たり報告数の推移【感染症情報センター発表の「感染症発生動向調査週報」等を基に機構で作成】

※定点とは、発生動向調査の観測用に選ばれた医療機関のことで、地域の流行状況について全体の傾向を可能な限り反映できるように、保健所ごとに設定されています。

